

祝！ 三位一体の祭日

行橋教会は三位一体の神に捧げられている教会です。すべての教会には保護の聖人がいます。日本の教会は地名で呼ばれますが、外国では保護の聖人名で呼ばれます。聖マリア教会とか聖ペトロ教会とか…。とすれば、行橋教会は三位一体教会、豊津教会は聖ザビエル教会ということになります。

今年の三位一体の主日は今日、6月3日です。ですから、今日が行橋教会のお祝いの日になります。今年は4月8日に復活祭を祝い、50日目の聖霊降臨祭で復活節を終えました。聖霊降臨祭の次の日曜日が「三位一体の主日」です。

教会には教会の暦があって、主の降誕（クリスマス）を準備する待降節に始まり、神の人類救いの歴史を毎年記念するのです。

「聖母子」の絵

韓国でのイベントのために帰国されていた九十九伸一さんが、幼稚園の子どもたちのために「聖母子」の絵を描いてくださいました。5月31日の聖母訪問の記念日の前日に完成しました。「聖母子」つまり聖母マリアと幼子イエスの絵ですが、「三位一体」という題をつけてもいいくらいの絵です。わたしたちはイエス・キリストを通して神のを知ることができるようになりましたが、この絵はその神の救いのわざを完璧なまでに表現して

います。父である神はその子イエスを聖母マリアと聖霊の働きによってこの世界に送ってくださいました。この幼子イエスは聖母マリアと神のみ手の中で聖霊に支えられて成長し、その生涯の終わりに十字架に付けられることによって神の人類への愛を示されました。

マリアはイエスの生涯の最初から最後まで常に一緒におられます。幼子を見つめるマリアの目は喜びだけではなく、悲しみにも満たされています。なぜなら、この幼子は将来、受難と十字架の死を迎えるからです。

灰色の目

この「聖母子」の絵は最後にマリアの目を塗ることで完成されました。制作の段階でマリアの目の色は決まっていませんでした。目は「ピエタ」と同じ色に決まりました。「聖母子」のデッサンは

キャンバスの下塗りをした上に浮かんできたようですが、「色」も九十九さんが想像だにできなかった色でした。

聖母マリアの目は私たちにも向けられた神の慈愛の眼差しなのです。



子どもたちは…

「聖母子」の絵は幼稚園ホールの中の広い壁に掛けられます。金曜日の宗教保育を聖堂で行い、幼稚園の子どもたちに見てもらいました。「みんな、この絵を黙ってじっと見て。何か見える?」「マリアさまとイエスさま!」「どうしてマリアさまなの?」「だっ



て、マリアさまじゃなかったら宇宙がこわれるもん!」子どもたちにはいろんなものが見えるようです。「どんな気持ちがする?」「やさしい。うれしい…。」気持ちもさまざまです。一人の子どもがいました。「灰色に見える…。かなしい…。」私はドキッとしました。子どもたちは天才です。その子の感想を受けて「ピエタ」の話をしました。イエスさまの十字架と死の話をしました。「イエスさま、なんでころされないかんやったん?」

最後に聖堂を出る子どもと手をつないで一緒に出ました。その子がいました。「○○ちゃんのお父さん、せんそうがはじまったら、せんそうするんだって…。」たぶんそのお父さんは自衛官なのでしょう。「せんそうになったら、ぼくたち、どこににげたらいいん?」酷とは思いましたが、「今度戦争になったら逃げるところはないんだよ。だから、ぜったいに戦争はしてはいけないんだよ。みんな仲良くしなくちゃね」と私はその子に言いまし

た。スロープを降りきったところで、その子がつぶやくようにいいました。「ぼく、この世界に生まれてよかった…。」「なんて言ったの?もう一度言ってみて。」その子は握っている私の手を大きく振りながら「生まれてよかった!」とうれしそうに言いました。まわりにいた子どもたちも私にまわりついてきました。(ぜったいに戦争をしてはいけない…と心の中で決意しました)

九十九さん、すばらしい絵をありがとうございました!

新しい聖水盤

これは九十九さんがデザインし、松尾雄一さん（聖堂ステンドグラスの製作者）が制作したものです。お二人の別の作品を買ってくださった方のおかげでできたものです。

十字架は真鍮（しんちゅう）で、ガラスは聖堂内扉の天使のステンドグラスと同じ色の



ものです。イエスさまの体が見えます。私たちは水に沈められ、真理の光と十字架によって救われます。私たちはなんと恵まれているのでしょうか! 三位一体の神に感謝します。